

研究科・専攻名

家政学研究科・
生活福祉専攻

教育課程・学習成果の検証

1. 研究科・専攻の教育課程について、院生の履修状況に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、院生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

教育課程編成・実施の方針のもと、学士課程での学修を基礎として、論文指導（特別研究）を除くと、現在24科目の特論、特別実習が開講されており、内容的にも多岐にわたっており、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。また、非常勤比率は43%であり、大学院を担当できる専任教員が少ないことを考えると適切と考えられる。このような観点から開講科目、非常勤講師比率は適切であり、院生にとって体系的な科目編成になっている。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

2. 「大学院生アンケート」(<http://web.kyoto-wu.ac.jp/gakuseki/cat82/20210324132744.html>)等の資料を参考に、研究科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

昨年度の在學生は1名であり、アンケートからはどの学生の意見かは不明であるが、履修指導の評価と授業に対する教員の熱意は非常に高く、教員の指導は学生から評価を得ている。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

3. 研究科・専攻として行っている、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）はどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

現在、学生は1回生、2回生各1名で、いずれも現職教員であり、多忙な中授業を履修しており、教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については高く、授業、研究活動とも積極的に取り組んでいる。専攻としての組織的な取り組みとして、特別なことは実施していないが、時間割や集中授業日程への配慮や、学生のリモート授業への対応、LMS使用方法、各教員への連絡の取り方など、きめこまめな対応が求められる点については、教員間での調整ができる体制をつくる必要性が考えられた。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

教員組織の編成においては、学部所属を前提に募集している。学部配属が決定した後、一定期間を経て授業や学習指導経験を踏まえ、大学院での授業担当者としての審査を行うことにより、大学院の指導担当者としてカリキュラムを考慮した、よりふさわしい専門家として授業担当者となるようにしている。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし